

12月5日 第303回 「インド『広島・長崎原爆展』を終えて」

話題提供 丹原美穂さん（ソーシャルウェルフェア代表） 26名

丹原さんは、11月17日～26日にインドへ行き、22・23日に原爆展を実施されました。「本当に?」「どうやって?」と皆の驚きの中、その様子を報告していただきました。

インドは1970年の核拡散防止条約調印を拒否し、核開発・ミサイル開発を進めました。1974年には地下核実験を行い、アメリカ・ロシア（当時ソ連）・イギリス・フランス・中国に次ぐ6番目の核保有国となりました。

なぜ、丹原さんはインドで原爆展を行おうとされたのでしょうか?

それは、平成28年に、日印原子力協定が調印されたからです。唯一の被爆国で、しかも福島事故の処理もできていない日本が他国へ原子力を売ることに丹原さんは大きな怒りを感じました。しかも、インドは人口が12億。そこで事故が起こったら大惨事です。インドはエネルギーが欲しいので原発を買うのですが、パキスタンや中国との力関係から核兵器を多く所有。国連の核兵器諸条約を批准していないインドに原発を売ることは更なる核兵器製造への道を開き危険。日本は死の商人になる。それに、また事故が起こったら製造企業の日本が責任を負わねばならない・・・と危機感を持ちました。プレ企画として岐阜で行った原爆写真展が、好評だったこと、広島・長崎の知人から最新の写真の提供があったこと、更にICANのノーベル平和賞受賞などにも背中を押されました。

原爆展を開催したのは、以前の首都コルタカ（カルカッタ）です。行く前のビザ取得や現地との調整の苦労もありましたが、現地の方がチラシやポスター作りなど、すばらしい準備をしてくれました。会場には日本から持参した鶴、核兵器禁止条約国際署名、福島のお母さんからインド首相に宛てた「日本から原発を買わないで」の手紙の展示・・・など、会場には様々な工夫がされているのが写真から伺えました。原爆展開催日には、科学者や市長・州知事などによるスピーチもありました。

今後、このような原爆展を世界各国で開きたいし、世界の科学者に平和運動に参加するよう呼びかけていきたい。また、建設予定の学校の敷地に9条の石碑を建て、平和を広めたいとも語られました。

最後に、滞在された孤児院や、コルカタの街の様子も写真で見せていただきました。

討論では、「日印原子協定に対してインドで反対運動はないのか?」「インドではどこが受け入れ団体だったのか?」「すばらしい活動だが、時間とお金はどうしているのか?」「原爆展にはどんな階層の人が来たのか?」「カースト制による貧しさをヒンズー教はどう考えているのか?」「インドでは北朝鮮問題をどうとらえているのか?」などなどの質問がたくさん出されました。また、子どもにこそ伝えていきたいという丹原さんの話に対して、「原爆直後の悲惨な実態を日常的に死などに触れる機会のない子どもたちには強烈すぎるので特別な配慮が必要ではないのか」「悲惨であっても事実をありのままに見せることが大切なのではないか」など、議論になりました。

今回の原爆展成功に至るまでには、それまでにフィリピン、ネパール、インドでの学校建設などの活動があり、丹原さんが現地で尊敬を集める存在であるということ、また、丹原さんはどこへ行っても現地の人とつながり、ネットワークを作ってきたという今までの実績があることがわかりました。参加者からは、これからは、もっと積極的に協力を呼びかけてほしいという声があがりました。

丹原さんへの心ばかりのカンパが呼びかけられ、お開きとなりました。